

本年度退職者

西山 清 教授 略歴・業績

略 歴

1949 年 東京都生まれ

1972 年 早稲田大学教育学部英語英文学科卒業

1980 年 早稲田大学文学研究科博士課程中退（文学修士）

1980 年～1984 年 同志社大学専任講師

1984 年 早稲田大学教育学部専任講師

1993 年 早稲田大学教育学部教授（名称変更により現在、教育・総合科学学術院教授）

2000 年 早稲田大学より博士号（学術）受領

学会および社会における主な活動

イギリス・ロマン派学会理事（1995 年～）

『イギリス・ロマン派研究』編集査読委員および『会報』編集責任者（1997 年～2006 年）

イギリス・ロマン派学会副会長（2006 年～2008 年）

イギリス・ロマン派学会会長（2008 年～2012 年）

The Nineteenth-Century Contexts (Lancaster University), 編集顧問（1990 年）

Wordsworth Summer Conference, 日本側招集責任者（2005 年～2009 年）

The Friends of Keats House (Keats House, Hampstead), 奨学生選考委員（2007 年～2011 年）

The Keats-Shelley Review (Keats-Shelley Memorial House, Rome), 編集顧問（2009 年～）

早稲田大学大学院教育学研究科博士論文主任審査員（2003, 2005, 2010, 2011, 2015 年）

早稲田大学小野梓記念学術褒賞選考委員（2009 年）

科学研究費委員会海外学術調査審査員（2013 年～2014 年）

早稲田大学 2014 年度特定課題研究助成費審査委員（2014 年）

科学研究費委員会研究活動スタート支援審査委員（2016 年）

主要業績

〈著書〉

（単）*Keats's Myth of the Fall: An Interpretation of the Major Poems of Keats in Terms of Myth-making*
（1993 年 9 月 北星堂書店）

（単）『聖書神話の解説』（1998 年 11 月 中公新書，中央公論社）

（単）『イギリスに花開くヘレニズム：パルテノン・マーブルの光と影』（2008 年 10 月 丸善プラ

ネット)

(共) *Centre and Circumference* (1995 年 5 月 桐原書店)

(共) *Voyages of Conception: Essays in English Romanticism* (2005 年 3 月 桐原書店)

(他共著 3 冊)

〈訳書〉

(共) 『アイルランドの怪奇民話』(W・B・イエイツ編, 1985 年 1 月 評論社)

(単) 『妙なる調べ』(E・R・ワッサーマン著, 1987 年 3 月, 桐原書店)

(単) 『エンディミオン』(J・キーツ著, 2003 年 8 月, 鳳書房)

〈論攷〉

(単) 「ロマン派の史的位相と神話創造」(1985 年 6 月『英語青年』巻頭論文, 研究社)

(単) 「おわりなき反抗の悲劇」(1988 年 4 月『英語青年』バイロン特集号, 研究社)

(単) 「イギリス・ロマン派の美意識と歴史的背景」(2003 年 3 月『教育学研究科紀要』第 13 号 早稲田大学大学院)

(単) “The Enlightenment and the Reception of the Plastic Arts by Painters and Poets” (2012 年 3 月『揺るぎなき信念——イギリス・ロマン主義論集』彩流社)

(単) “A Cityscape ‘To One Who Has Been Long in City Pent’” (A Revision) (2013 年 10 月 Jens Martin Gurr ed. *Romantic Cityscapes*, WVT Wissenschaftlicher Verlag Trier)

(他 40 篇)

〈学会発表〉

(単) 「「レイミア」考」(1983 年 10 月 イギリス・ロマン派学会全国大会)

(単) 「自動律の神話・二つの「ハイペリアン」」(1986 年 5 月 日本英文学会全国大会)

(共) 「キーツ・200 年の軌跡」(日本英文学会全国大会シンポジウム・パネリスト 1995 年 5 月 筑波大学)

(単) “A Historical Process Internalised in ‘Hyperion’” (1996 年 8 月 Wordsworth Summer Conference, Grasmere, England, UK)

(共) 「ロマン主義と旅」(イギリス・ロマン派学会全国大会シンポジウム・パネリスト 2003 年 10 月 慶応義塾大学)

(他 5 篇)

〈評論 (すべて単)〉

「イギリス歳時記」(1988 年 4 月～1989 年 3 月『百万人の英語』日本英語協会)

「イギリス・ロマン派とエルギン・マーブル」(2001年2月『学燈』丸善)

「イギリス社会の Resilience と Tolerance ということ」(2006年3月『総合研究所所報』第3号, 早稲田大学教育総合研究所)

「石との対話」(2008年5月『会報』第32号, イギリス・ロマン派学会)

「模倣の不可能性」(2010年11月『新鐘』第77号, 早稲田大学)

(他2篇)

〈書評 (すべて単)〉

高橋 雄四郎著『ジョン・キーツ』(1989年8月『図書新聞』)

Andrew Motion, *Keats* (1998年4月『学燈』丸善)

岡地 嶺著『英国墓碑銘文学序説—詩人篇』(2001年3月『英語青年』研究社)

Stanley Plumly, *Posthumous Keats* (2009年 *The Keats-Shelley Review*, winter issue, Keats-Shelley Memorial House, Rome)

Nicholas Roe, *John Keats* (2014年3月『イギリス・ロマン派研究』第38号, イギリス・ロマン派学会)

(他4篇)

〈解説・紹介 (すべて単)〉

「ロマン派と現代」(1995年5月『聖教新聞』)

J. Gay's *Fables* (1997年4月～1998年3月『英語青年』研究社)

『ロマン主義と想像力 / 詩人ジョン・キーツ / 「聖アグネス祭前夜」「ギリシャ古壺のオード』』
(2007年5月, ロマン主義入門 *An Introduction to English Romanticism* 放送大学 DVD およ
びウェブ・サイト <http://www.campus.ouj.ac.jp/~gaikokugo/romanticism>)

「大英博物館とパルテノン・マーブル」(2009年4月『21世紀イギリス文化を知る事典』東京書籍)

「私の一冊: *The Gentleman's Magazine*, 1731-1907」(2015年11月『イギリス・ロマン派研究』第
39 / 40 合併号, イギリス・ロマン派学会)

(他2篇)

〈編注〉

(共) *Life of Our Lord* (1980年12月 共編, 桐原書店)

(共) *Twelve Chapters on Japan* (1987年11月 共編, 研究社)

(共) *Christian Names* (1991年1月 共編, 北星堂書店)

(単) *English and American Poetry* (1999年5月 鳳書房)

〈国内（学術）講演〉

「イギリスのアウトドア・ライフ」（1997 年 11 月『英国遊学講座』ヴァージン・アトランティック航空）

「イギリス文学の中の自然」（1998 年 6 月『もみじ山文化セミナー』中野区文化・スポーツ振興公社）

「ロマン主義と歴史的必然」（2002 年 5 月，イギリス・ロマン派講座）

「大英博物館とエルギン・マーブルの歴史」（2010 年 7 月，広島日英協会）

“Keats and Romantic Connections with Fragments”（2014 年 6 月，NASSR Tokyo: Romantic Connections, supported by BARS, GER, JAER, RSAA, University of Tokyo）

（他 20 篇）

〈海外学術講演〉

“The Romantics and the Aesthesia of Fragments”（2005 年 8 月，Wordsworth Summer Conference, Grasmere, England, UK）

“Keats and Statuary”（2008 年 3 月，University of St Andrews, Scotland, UK）

“The Enlightenment and the Plastic Arts — West, Coleridge and Keats”（2010 年 7 月，Coleridge Summer Conference, Cannington, England, UK）

“A Cityscape to One Who Has Been Long in City Pent”（2011 年 10 月，International Symposium of the German Society for English Romanticism, Duisburg, Germany）

“The Prince Regent: A Life in Caricature”（2012 年 8 月，Wordsworth Summer Conference, Grasmere, England, UK）

（他 2 篇）